

# 南アとロシアに偏るプラチナ供給

～ 需要が拡大するなかにあって供給は不安定 ～

2006年 8月21日 (月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

## ～ 要 旨 ～

最近、プラチナ（白金）の国際価格が騰勢を強めている。価格上昇の背景には、需要側の要因として、中国で宝飾用のプラチナ消費が増えていること 自動車に使用する燃料電池の需要が世界で急増していること ハードディスクの記憶容量を増やすための磁気記録材料をはじめプラチナを利用する商品分野が広がってきたことなどがある。

一方、供給側の要因としては、プラチナの主要供給国である南アフリカとロシアで供給不安が広がっていることがある。プラチナは、南アフリカとロシアで全供給の90.5%がまかなわれており、生産が特定地域に集中している。ロシアでは、1823年にウラル地方で白金の鉱山が見つかったが、1920年代までに大量の採掘を行ったため、現在では埋蔵量が少なくなっている。ロシアのプラチナ供給は不安定で、ロシアが金融危機に直面した98年には、プラチナやパラジウムの輸出が停止される事態となり、プラチナの国際価格上昇の主要因となった。近年、ロシアのプラチナ生産はほぼ横ばいで推移しており、2005年は前年比+5.3%の27.7トンとなった。なお、ロシアで産出するプラチナの73.9%はノリリスク・ニッケルが産出している。

南アフリカは、1925年にトランス・バール地方で巨大なプラチナ鉱脈が発見されて以来、ロシアを抜いて世界最大のプラチナ供給国となった。南アにはアングロ・プラチナなどの有力鉱山が多数存在する。鉱山各社は、プラチナの国際価格上昇を受けて、これまでに大幅な増産を実施しており、2005年の産出量は前年比+2.0%の158.9トンとなった。収益も好調で、2005年は各社とも大幅な増収増益を記録した。しかし、南アでは今後「貴金属法」が正式に施行される予定で、これにより鉱山各社の増産の勢いが弱まるのではないかと懸念が浮上している。「貴金属法」は2005年10月に法案として出されたもので、鉱山の採鉱、加工、輸出までの各工程における付加価値に対して課税を賦課するというもの。これにより、鉱山各社は大幅なコストアップに見舞われることになるので、増産を抑制する動きが広がるとみられている。

こうした需給バランスの動向を勘案すると、プラチナの国際価格は、中長期的に上昇トレンドをたどる公算が大きいといえよう。

プラチナは燃料電池など、国内のハイテク産業にとって不可欠の資源であるため、日本政府は供給を安定化させるための様々な方策を打ち出している。